

別紙標準様式（第6条関係）

会議録

会議の名称	令和2年度 第1回 枚方市食育推進計画審議会
開催日時	令和3年1月22日（金） 開始時刻 13時30分 終了時刻 15時00分
開催場所	ひらかたサンプラザ1号館 6階 職員研修室
出席者	春木敏会長、渋谷眞宏副会長 富永薫委員、田中絹代委員、富田丈滋委員、堀久美子委員、有川智博委員、井上努委員、末岡妙子委員、向井恵子委員
欠席者	宇佐見美佳委員、松本容子委員
案件名	1. 第3次枚方市食育推進計画の中間評価（案）について 2. 今後の予定について
提出された資料等の名称	資料1 : 第3次枚方市食育推進計画中間評価報告書（案） 資料2-1 : 「食」に関する市民意識調査結果 2-2 : 「食」に関するアンケート結果（高校生・大学生・専門学校生） 2-3 : 小中学校での食育の取り組みに関するアンケート結果 2-4 : 幼稚園・保育所（園）・認定こども園での食育の取り組み状況アンケート結果 資料3 : 中間評価報告書作成に係るスケジュール 参考資料1 : 第3次枚方市食育推進計画進捗状況一覧表 参考資料2 : 枚方市食育推進計画審議会委員名簿
決定事項	第3次枚方市食育推進計画中間評価報告書（案）について検討した。
会議の公開、非公開の別及び非公開の理由	公開

会議録の公表、非公表の別及び非公表の理由	公表
傍聴者の数	0人
所管部署 (事務局)	健康福祉部 地域健康福祉室 健康増進・介護予防担当

審議内容	
春木会長	<p>定刻となりましたので、これより令和2年度第1回枚方市食育推進計画審議会を始めさせていただきます。</p> <p>皆さま方には、大変お忙しい中、本会議にご出席いただき誠にありがとうございます。食育推進計画は、第1・2期を経まして第3期へと進展していくことになり、皆さま方と共に取り組んでまいります。</p> <p>データを見ますとかなり改善されているものもありますが、基本的な面からみますと、市民の皆さま方の食事管理にはまだまだ課題が散見されます。今後の取り組みにおきましては、こうした現状を踏まえ、市民一人ひとりが望ましい食生活を実践し、“健やかで楽しい日々を送る”ことは、枚方市民の皆さまにとっては欠かせません。</p> <p>目下、その一環となる食育推進を展開していく時と考えます。食育推進に取り組んでいただいております皆さま方のご活躍・ご支援をいただきますようよろしくお願いいたします。</p> <p>続きまして、事務局からご挨拶のほど、よろしくお願いいたします。</p>
山崎 健康福祉部長	<p>皆様、はじめまして、こんにちは。健康福祉部長の山崎と申します。どうぞよろしくお願いいたします。今回は本年度第1回の食育推進計画審議会の開催にあたりまして、冒頭一言ご挨拶をさせていただきます。</p> <p>本日は公私ともにご多用の中、また、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言が発令されている状況の中、審議会へのご出席をいただきまして誠にありがとうございます。今回の審議会につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の対応としまして、ウェブ会議システムを使用しての開催とさせていただきます。何分不慣れな点もあり、ご迷惑をお掛けすることやなじみにくいところもあるかと思いますが、こういう状況の下でございますので、ご理解・ご協力の程よろしくお願いいたします。</p> <p>早速ですが、今回ご審議いただく案件、第3次枚方市食育推進計画の推進・評価等につきましては、この間、新型コロナウイルス感染症拡大で様々な影響を受けており、なかなか取組が十分に進められないような部分もあ</p>

る状況ですが、この計画は平成 30 年度に策定させていただいて、ちょうど 3 月末で折り返しの 3 年目という中間年に当たります。そういった中で、各取組指標の進捗状況について説明をさせていただいて、評価をいただき、最終的には中間評価報告書という形で取りまとめをさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

私どもにとりましては、この中間評価の結果を踏まえまして、残りの計画期間 3 か年の中での取組の方向性を再考し、また、目標達成に向けて、より一層食育の推進に取り組んでまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。委員の皆様におかれましては、本市の食育施策のより一層の推進が図られますよう、本審議会におきまして、それぞれご専門の見地から幅広いご意見をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。簡単ではございますが、開会のご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

春木会長

種々、取り組んでいただくよう、よろしくお願いいたします。

では、案件に入る前に、事務局から委員の出席状況並びに、傍聴の希望者について、ご報告をお願いいたします。

事務局

本日の委員の出席状況ですが、委員 12 名中、ウェブ参加も含めまして、10 名の出席をいただいております。過半数に達しておりますので、枚方市附属機関条例第 5 条第 2 項に基づき、本会議は成立していることをご報告いたします。また、今回、委員の交代がありましたので、ここでご紹介をさせていただきます。

ウェブで参加をしていただいております、PTA 協議会の富永委員です。どうぞよろしくお願いいたします。なお、宇佐見委員と松本委員は、今回はご欠席のご連絡をいただいております。

次に、本日の傍聴希望者ですが、傍聴希望はございませんでした。以上、ご報告いたします。

春木会長

はい。ありがとうございます。

本日の審議につきましては、昨年度の本審議会でも承認されましたとおり、会議を公開するとともに、会議録につきましても発言された委員の氏名を公開させていただくこととなります。ご了承のほど、よろしくお願いいたします。

では、これより次第に沿って進めさせていただきます。なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、資料説明につきましても簡潔にまとめていただき、可能な範囲で時間短縮に努めていただきますようよろしくお願いいたします。

事務局

では、案件1、第3次枚方市食育推進計画中間評価(案)につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

最初に資料の確認をさせていただきます。

まず、お手元に本日の次第、続きまして資料1、資料2-1、資料2-2、資料2-3、資料2-4、資料3、そして参考資料1、参考資料2、以上となっております。過不足等ございませんでしょうか。

続きまして、資料1の第3次食育推進計画の中間評価報告書(案)のご説明に移りますが、ご説明前に資料1の訂正が2か所ございます。会場にお越しの委員の皆様には、修正後の資料をお渡ししておりますが、ウェブ参加の委員の皆様には大変申し訳ありませんが、修正をお願いいたします。

2か所のうち1か所目は、報告書内のページ番号24の指標⑭の表になります。策定時値ですが、59.7%のところを60.9%に修正をお願いいたします。

2か所目は、30ページの指標⑳の農業体験に参加する人の増加の表になります。策定時値ですが、6,188人のところを6,183人に修正をお願いいたします。

修正箇所は以上です。大変申し訳ございませんでした。

説明に入る前に、お断りがございます。

先ほど、会長からお話がありましたとおり、審議会の時間短縮のため、説明は概略となります。あらかじめご了承をお願いいたします。

それでは、資料1の表紙に戻っていただきまして、表紙をめくっていただきますようお願いいたします。

目次のページをごらんください。

報告書案の構成は、1. 枚方市食育推進計画の経過と第3次枚方市食育推進計画の特長について、2. 計画期間、3. 中間評価について、4. 各指標の評価に当たっての留意事項、5. 評価の方法、6. 第3次枚方市食育推進計画における指標に関する現状値、7. 指標ごとの達成状況、8. 今後、優先的に取り組むべきこと、9. 資料編となっております。

以上の構成のうち、まず6. 第3次枚方市食育推進計画における指標に関する現状値までを一括して先にご説明させていただきます。

2ページをごらんください。

このページには、枚方市食育推進計画の経過と第3次枚方市食育推進計画の特徴と計画期間について記載しております。

3ページをごらんください。

(2) 調査の方法についてです。

評価の基礎資料となるアンケートについては、令和2年1月頃からの新

型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮し、インターネットを活用した一部策定時と異なる方法で実施しました。また、実施した全てのアンケートについて、新しい生活様式下における食に関する意識の変化や、個人の食生活の現状を把握するために、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う食生活の変化についてなど、新たに設問を追加しました。

実施したアンケートは次の3つになります。

1つ目は、「食」に関する市民意識調査です。

対象は無作為で3,000人の市民を抽出し、有効回答数が1,490人でした。実施期間は令和2年10月1日から令和2年10月31日までで、対象者に郵便でアンケート用紙を送付し、返送された結果を集計しています。集計結果の詳細は、資料2-1のとおりです。

2つ目は、「食」に関するアンケートです。

市内の高校生、大学生、専門学校生で、有効回答数は987人でした。実施期間は令和2年9月15日から令和2年10月31日までで、インターネットによるアンケートを実施しました。このインターネットによるアンケートにつきましては、策定時とは異なり、高校の授業日数の減少や大学のオンライン授業の導入により、アンケート用紙の配布や回収が困難となる等の状況により、方法を変更し、実施いたしました。集計結果の詳細は、資料2-2のとおりです。

3つ目は、枚方市立の小中学校における食育の取組状況アンケートです。

対象は枚方市立の小学校・中学校で、合計64校になっております。実施期間は9月で、インターネット及び郵送で行い、64校全ての学校より回答をいただいております。集計結果の詳細は、資料2-3のとおりです。

4つ目は、保育所・保育園・幼稚園における食育の取組状況アンケートです。対象は枚方市にある公立及び私立の保育所、保育園、幼稚園、小規模保育施設、私立の認定こども園、合計98施設となっております。実施期間は令和2年8月から10月までで、インターネット及び郵送によるアンケートを実施し、こちらについても98施設全てから回答をいただいております。集計結果の詳細は、資料2-4のとおりです。

続いて、4ページに移ります。4ページです。

4. 各指標の評価に当たっての留意事項として、中間評価時は令和2年1月頃より新型コロナウイルス感染症の拡大により、飲食を伴う食育活動や多くの人が集まる講座やイベント、農業体験等が中止となり、様々な食育活動に大きな影響がありました。

しかし、今後、食に関する意識や生活様式の変化に対応した食育を推進するため、各指標の評価を行いました。

次に、5. 評価の方法についてです。

今回の評価につきましては、表にお示しのとおり、達成度はA、B、Cを用いた3段階評価としています。この評価方法は、先の計画である第2次枚方市食育推進計画の最終評価の評価方法を踏襲し、実施しております。

続いて、5ページ、6ページに移ります。

6. 第3次枚方市食育推進計画における指標に関する現状値についてです。

ここでは、計画の指標や目標値、発生状況などを一覧としてまとめております。指標は左側の列、包括指標から基本方針1、2、3、4に分類され、①から⑳までございます。指標のうち、③-2、④、⑧、⑨、⑫、⑯の色のついた指標は重点項目としている指標です。数値は左側から計画策定時の平成29年度調査の値、今回の中間評価の値、そして令和5年度の計画最終目標値を記載しております。

次の達成状況の欄には、現在の達成状況をAからCまでの3段階に評価し、最後に各指標の調査方法を載せております。

以上が報告書案の1. 枚方市食育推進計画の経過と第3次枚方市食育推進計画の特長から6. 第3次枚方市食育推進計画における指標に関する現状値までの説明となります。以上です。

春木会長

ありがとうございました。

ただいま、事務局から報告書案について、目次の1. 枚方市食育推進計画の経過及び第3次枚方市食育推進計画の特長、6. 第3次枚方市食育推進計画における指標に関する現状値までの説明をいただきました。

ここまでの説明等で何かご意見、あるいはご質問等はございませんでしょうか。ご遠慮なくお尋ねください。会場外の皆さまも、ぜひお尋ねがありましたら、どうぞよろしくお願ひいたします。

末岡委員

この計画策定時、③朝食を欠食している小中学生・高校生の減少で小学6年生が5.9%の子どもが欠食していたけれども、中間評価時は5.3%に減ったという意味ですね。平成29年は全体の中で5.9%が欠食児で今回は5.3%の子が欠食児と読むんですね。

事務局

はい、そうでございます。

末岡委員

ありがとうございます。

そうすると、⑫は22.3%が正しい知識を持ち、実践している人ということだったのに今回19.1%に下がったということになるんですね。

事務局	見方としては、そういった意味でございます。
末岡委員	はい。
事務局	よろしいでしょうか。
春木会長	では、次に進ませていただきます。 今のご報告も含めまして、ご質問、ご意見等ございましたら、会場の方も、それからウェブで参加いただいている皆様方にもご意見よろしく願いたいと思います。いかがですか。特にございませんでしょうか。
末岡委員	はい。10 ページに、朝食を欠食している小中学生・高校生の減少をうたっていて、今後の取組としてこういうことをするって書いてありますが、28 年から頑張っているんなことをしたけれども、結局現状の数字は下がっていますよね。そうしますと、もっと違うアプローチが必要だという話になるんじゃないかと思うんですね。単純な啓発事業だけで欠食児がなくなるということにはならないだろうと思っちゃうんですけど、いかがですか。
事務局	この後、7 ページ以降に関しましては、また改めて時間を設けておりますので、そこでまずご説明させていただいた後、今のご意見をもう一度頂戴できればと思いますので、よろしくお願いいたします。
末岡委員	すみません、はい。
春木会長	ほかに、今までの報告でご質問・ご意見等ございませんか。 では、今のところご質問等々ございませんので、次に進めさせていただきます。 次は、7. 指標ごとの達成状況についてまで、事務局から説明をお願いいたします。
事務局	それでは、資料1の7ページから説明させていただきます。 7 ページ以降の7. 指標ごとの達成状況の内容につきましては、包括指標①と②及び重点項目の指標6つに絞ってご説明をさせていただきます。 まずは、指標①食育に関心のある人の増加についてです。 「食」に関する市民意識調査では、現状値は 74.9%となっており、達成状況としてはCになりましたが、これまでの主な取組として記載のとおり、ひらかた食育カーニバルやひらかた食育 Q&A の配付など、様々な取組

をしてまいりました。

今後の取組方向につきましては、食育に関心のある人の割合は策定時に比べて減少しております。しかし、生涯にわたって健全な食生活を実践する力を育むためには、1人ひとりが食育に関心を持つことが重要です。イベントや講座等が中止・縮小され、啓発機会は減少しておりますが、従来の啓発に加え、新たな手法として動画やSNS等を積極的に活用し、食についての情報発信を行うことで、より幅広い層への啓発を図ります、としております。

続いて、8ページに移ります。

指標②食育活動を実践している人の増加についてです。

「食」に関する市民意識調査では、現状値は70.8%となっており、達成状況としましてはBとなりました。

下段の今後の取組方向に進みまして、今後の取組方向は農業体験や調理実習、食育カーニバル等の参加型イベントを通して楽しく学ぶことは、食育の実践につながる効果的な推進方法と考えていますが、今後は集合型のイベントに限らず、SNSや動画を活用するなど、個人や家庭において食育の実践につながりやすいツールを検討し、引き続き推進していきます、としています。

続いて、重点項目の指標の説明に移ります。

10ページをごらんください。

指標③-2、朝食を欠食している小中学生・高校生の減少についてです。

小学校・中学校の現状値については、令和元年度全国学力・学習状況調査により、表にお示しのとおりで、達成状況としてはBとなっております。

高校生の現状値については、今回、インターネットアンケートで実施しており、調査方法が前回調査と異なっており、単純比較はできないとの考えから、達成状況の判定は行っておりません。

今後の取組方向として、この時期に形成される食生活は、生涯にわたる食生活の基礎となります。引き続き、小中学校において「食に関する指導の全体計画」に沿って計画的な食育を推進することや、その他、小中学生・高校生を対象とした「ひらかた食育Q&A」や健康医療キャラバン事業等を活用して、今後も啓発に努めていきます。また、引き続きPTAや小中学校と連携して、健全な食生活の確立を目指します、としています。

続いて、12ページに移ります。

指標の④、1日のうち2食以上、主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている若い世代の増加（20歳代・30歳代）についてです。

「食」に関する市民意識調査では、現状値は42.1%となっており、達成状況としてはCとなりました。

今後の取組方向としまして、13ページに移ります。

若い世代の興味・関心を高めるため、オンライン講座や SNS など新たな手法で情報発信していくことや、若い世代にとって利便性の高い外食や中食でバランスのよい食事を選ぶことができるよう、これまでの取組を踏まえ、食環境づくりについて様々な手法での展開を検討していきます、としています。

続いて、17 ページに移ります。

17 ページの指標⑧、1日のうち2食以上、主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている人の増加についてです。

「食」に関する市民意識調査では、現状値は 58.7%となっており、達成状況はCとなりました。

今後の取組方向としましては、引き続き健康講座や食育リーフレットの配布、広報ひらかたの枚方キッチンなどにおいて、バランスよく食べる工夫について広く啓発していくことや、さらには栄養相談やひらかたカラダづくりトライアル 120 日チャレンジを通して、積極的に個別にアプローチをしていきます、としています。

続いて、18 ページをごらんください。

指標⑨生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践する人の増加についてです。

「食」に関する市民意識調査では、現状値は 66.4%となっており、達成状況はBとなりました。

19 ページの今後の取組方向として、外食や中食が多い人でもバランスのよい食事の選び方を知り、健康的な食生活ができるよう、食環境づくりについて様々な手法での展開を検討していきます、としています。

続いて、22 ページをごらんください。

22 ページの指標⑫食の安全性に関する正しい知識を持ち、実践している人の増加についてです。

「食」に関する市民意識調査では、現状値は 19.1%になっており、達成状況につきましてはCとなりました。

今後の取組方向として、食の安全性に関する正しい知識を持ち、実践している人の割合は低下していましたが、上記グラフのように、3項目のうち食品表示を見て食品を購入している人は 58.8%、調理前や食事前に手洗いを行っている人は 83.6%にあり、多くの市民が食の安全に関して日ごろから意識していることが伺えます。

今後、3項目のうち割合の低い食中毒予防の三原則を優先課題とし、あらゆる機会を通じて積極的に周知・啓発を行いますとしています。

続きまして、26 ページに移ります。

26 ページ、指標⑯1日のうち2食以上、主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている人の増加（日本型食生活の継承）についてです。

	<p>「食」に関する市民意識調査では、⑧の指標の再掲となりますが、現状値は58.7%となっており、達成状況としましてはCとなりました。</p> <p>今後の取組方向としまして、日本型食生活は生活習慣病予防や低栄養予防など、全世代を通じて健康的な食生活のベースとなるため、今後も継続して周知啓発を行っていくことや学校給食やイベント等、あらゆる機会を通じて広く情報発信を行いますとしています。</p> <p>以上が重点項目の指標説明となります。7. 指標ごとの達成状況の説明を終わります。</p>
春木会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただいま、7. 指標ごとの達成状況について、事務局から分かりやすく説明をしていただきました。ありがとうございます。</p> <p>参加の皆様方、何かご意見・ご質問等ございませんでしょうか。</p>
末岡委員	<p>すみません。基本的に食育の限界だとは思いますが、知識を知っていただくということだけでは、ネグレクトは防げないわけで、結局のところ欠食児が減少しない問題は、食育の中では本当の意味で解決しようという考え方がもしかしたらないのかなという気もしているんですけど、実際に欠食児というのが、このパーセントで見たときに0.1%って一体何人なのって考えたとき、とてつもない数字のような気がしています。</p> <p>この食育推進計画には、やはり知識を与える、理解してもらうということがすごく大きいので、実際に数を減らすために具体的にどうするというのが食育計画の中に入れ込むことができないのかなという気持ちはあるんですが、実際幼児の場合、個別支援と書いてありますが、欠食が把握できた乳幼児に関して個別支援を通して助言を行いますということは、例えば食物を配るといようなことはされているのでしょうか。</p>
事務局	<p>個別に相談を受けるという体制で、配るといことはしておりません。</p>
末岡委員	<p>分かりました。もし配るといようなことをするような話になったら、これはもう食育の話ではなく福祉の話になってしまいますか。</p>
事務局	<p>食育の観点もあるかと思いますが、福祉との連携になっていくかと思えます。</p>
末岡委員	<p>はい。小中学校の欠食児というのは、現実に学校などで非常に多いと思うんですね。そういうものを解決しようとか、それから給食がないときの食事に対して、実際に食べ物をどう用意するかの話にしかならないと思う</p>

	<p>んですが、ネグレクトの解決ということも1つ大きく指標としては全然入ってこない感じですけども、このままネグレクトを解決しないと、どうしようもないものではないかという気がするんですけども、これは食育と離れ過ぎてますか。</p>
事務局	<p>その視点も考えていかないといけないと思っております。</p> <p>ただ、今回中間評価ということもありますので現状と、今後、そのご意見をいただいたことも踏まえて、食育分野だけでの考えでは進めていけない視点は大変多くありますので、検討していかなければならないと思っております。</p>
末岡委員	<p>ありがとうございます。せっかくの中間評価というところで、1つ大きく解決のチャンスかもしれませんし、十分この機会を活用して、親からの支援が受けられない子どもたち、あるいは自分自身を大事にできない子どもたちは、いくら知識をいただいても自分を大切にすることができなくて欠食なりバランスの取れない食事に走ってしまうことがあると思いますから、やはり自分を大切にすることを中心とした何かしらの試みというものが、食育を進めるに当たって必要だと思っておりますので、ご配慮よろしく申し上げます。以上です。</p>
春木会長	<p>ご意見ありがとうございました。</p>
向井委員	<p>質問してよろしいですか。</p> <p>達成状況を見ますと、Cが付いているところがすごく多くて、特に米飯給食の3回を4回にすることぐらいはできるんじゃないかと思ってるんですけどそれができない。朝食の欠食を減らすとかっていうのはいろんな要素があるかもしれないんですけど、米飯給食を1回増やすのは努力すればできるんじゃないかと思うんですけど、これもCなんですよ。全体的に何かCが多く目につくんです。目標が多分離れているような、目標値からかけ離れているようなものもあったりして、CはCのままでいいわけじゃなくて、やっぱり良い指標であったほうがいいので、目標値を定める検討が要るんじゃないかと私は思ったのですがいかがでしょうか。</p>
春木会長	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>事務局、何か対応ありますか。次年度に向けても含め、取り組みにあたっての検討など、お願いいたします。</p>
事務局	<p>ご質問ありがとうございます。</p>

確かに今回の指標結果を見ていくと、C判定が多くなっているんですけども、現状維持というところもC判定になっております。目標については、策定時から推進の方向性には変わりがないため、今後の取組方法でそれぞれ示しておりますとおり、推進方法の見直しや工夫をしながら目標値を目指していこうと考えております。

米飯給食についても、週1回増やすというところが簡単なように見えて調整をしていく中で、かなりいろいろな問題もあり、前向きに調整を進めているようですが、現状週4回になっていないというところです。進捗は進んでいると聞いておりますのでよろしくお願ひいたします。

向井委員

なるべく4回にさせていただきますようお願いいたします。

春木会長

ご意見ありがとうございます。そのほかにございませぬか。

渋谷副会長

失礼します。船橋小学校の校長の渋谷といいます。よろしくお願ひします。

先ほどご質問にありました、小学校での朝食の欠食児童ということで、5.9%から5.3%に減少はしているんですが、ご指摘がありましたように、小学校の場合、朝食を欠食するというようなご家庭の問題というのは非常に多くて、ちょっといろいろな場面で少しご家庭がしんどいなというところが増加しており、年々増えているのは事実だと思います。数値的には5.3%ということで、先ほどありました0.1%にかなりの子どもたちがそういう状況にはあるんですけども、いろいろな福祉関係との連携や、あるいは子ども総合相談センターというようなところとの連携も必要などころではないかなと。一般的に、こういう数値だけ見ていくと齟齬はありますが、先ほど言われたようないろいろな場面、場所との連携というのをしていかないと、ちょっと食べていけない。小学校でも、朝ご飯食べて来なさいよということはよく言いますが、子どもで用意できる部分は限られたところしかありませんので、学校の取組としても行ってはいますけども、保護者へのお願ひというところで留まるのが現状です。以上です。

春木会長

みなさん、いかがでしょうか。

さらにご確認なされたいこと、こんなこともできるのではないのでしょうかなどのアイデアがありましたら、ぜひご紹介いただければと思います。いかがでしょうか。

田中委員

すみません、保育園なんですけれども、保護者に対して食育活動をするとか、園児に対して食育活動をするとか、そういうことが今年に限っては

クッキング保育も全くできない状況です。食育計画はしっかり立ててや
てはいるんですけども、なかなかそれが実践できないような状況である
という、意見ではないですけども状況報告ということで。指標⑤も策定
時から減ってると思うんですけども、次にアンケートを取ったらさら
に下がるような気がします。以上です。

春木会長

ご意見ありがとうございます。

今ほど、お話された中で、クッキングなどはできないというのは、施設
の状況でそのようになっているのでしょうか。

田中委員

はい。感染予防のために、公立さんはやっておられないという風に聞いて
おりますし、子どもたちが集まることが、異年齢児で集まることも抑え
ておりますので、できません。

春木会長

現況をお知らせいただきました。これまでに種々の取組を積み上げてい
ただいていますが、いずれの年代にしましても積み上げてこられた教育実
践ができ兼ねるという社会環境により、壁が出来上がってしまったとい
うことでしょうか。難しいところですね。すぐにアイデアは出てこないです。

取組としては、やはり忘れないでやっていくことでしょうか。

とりわけ、若い世代の家庭管理の中における食事管理には、私たちが「あ
あ一つ」とため息が出るようなことが多くあります。このような現況を今
後、どのように解決していくとよいかという、大きな課題であると思いま
す。皆さま方から、お知恵を出していただいて、「こんなふうになれば少
しは改善されましたよ。」とか、先生方、PTA、地域活動の皆さまのご活動
のお話などをお聞かせいただければありがたいです。

また、先ほど、7. 指標ごとの達成状況ということで、私もお話をさせ
ていただきましたが、特にもう少しこれがこうなったらいいんじゃない
か？こうする方法もあるんじゃないか？などありましたら、ご発言いた
だきますようお願いいたします。

では、既にたくさんのご意見をいただきましたので、次に進めさせてい
ただきます。

今後、優先的に取り組むべきこととしまして、事務局から説明をお願い
いたします。

事務局

ご説明させていただきます。

31 ページをごらんください。資料1の31 ページです。

今回の中間評価より、今後の食育の取組につきましては、これまで推進
してきた食育を継続しつつ、新しい生活様式に対応したものへと変化させ

ていくことが課題の一つと考え、最終年度に向けまして、第3次計画より新たに加わった基本方針である、「若い世代を中心とした食育の推進」、「健康寿命の延伸につながる食育の推進」を更に進め、次の2つの指標を優先課題として取り組んでいきます、としています。

優先課題の1つ目は、1日のうち2食以上、主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている若い世代の増加【指標④】で、優先課題2つ目は、生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩に気をつけた食生活を実践する人の増加【指標⑨】としています。

2つ目の優先課題の指標⑨に関わる適正体重の維持については、第2次枚方市健康増進計画においても優先課題となっており、両計画において整合性を図りながら推進していきます。

今後は新しい生活様式下において、食育の啓発を集合型のイベントや講座に限らず、インターネットやSNS等を活用し、簡単な調理法を動画で配信するなど、情報発信の方法を工夫することで、若い世代へ効果的に周知啓発できるように努めていきます、とし、また、食育に関心がない人や関心を持っているが実践できていない人も自然とバランスのよい食事を選ぶことができる食環境づくりについて、様々な手法での展開を検討していくことや啓発媒体等を活用し、両指標についてあらゆる機会を捉え、積極的に啓発していきます、としています。

加えて、引き続き、保育所（園）、幼稚園、認定こども園、学校等での子どもや保護者への食育活動を進め、食に関する知識や取組を次世代へ伝え、つなげていけるように取り組むほか、食に関するボランティアの身近な地域における食育の実践や農業体験事業等様々な食育活動についてあらゆる手法を検討し、ネットワークを生かしながら一体となって取り組むことで、より効果的な食育の推進を図ります。

以上が8. 今後、優先的に取り組んでいくことのご説明になります。

春木会長

ありがとうございました。

今後に向けて優先的に取り組むべきことについてお話をいただきました。質問、あるいは追加事項等ありましたらお知らせください。

向井委員

若い世代の食育というのはとても大切なことだと思いますが、健康寿命の延伸につながる食育ということに関しては、高齢者の方たちのフレイル問題もとても今深刻で、やっぱりコロナの影響もあって、食事をとることの困難さというか、そういう人たちもたくさんいまして、インターネットやSNSってやっぱり若い人しか接することができなくて、高齢者の人にはちょっと難しいので、健康寿命の延伸に何か高齢者に対してのアンケートみたいな形のみじゃなくて、高齢者向けといいますか、そちらのほうにも

	<p>ちょっと力を入れてほしいと私はお願いをします。</p>
春木会長	<p>ありがとうございました。事務局、何か対応ございますか。</p>
事務局	<p>今回、新しい取組として SNS やインターネットを活用する食育ということ を挙げさせていただいてはいるんですけども、高齢者の方に対してコ ミュニティへの食育リーフレットの配布や、全戸配布の広報ひらかたの裏 表紙への健康的なレシピ掲載など、紙面としても見るができるように させていただきます。</p> <p>また、講座やイベントなども引き続き行っていく予定としておりますの で、若い世代だけではなく、高齢者の方もフレイル予防という啓発にも力 を入れていきたいと思っております。ご意見ありがとうございます。</p>
向井委員	<p>簡単な料理法とかね、動画で表せるような、そんな今風なところも願 いしたいと私は思いますので、よろしく願いいたします。</p>
春木会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ほかにご意見等々ございましたらお願いいたします。よろしいでしょ うか。</p> <p>ただいま事務局からは、今後に向けて優先的に取り組むべきことの説明 をいただきました。それに伴いまして、まだ発言をされていない方、せ っかくの機会でございますので、まだまだ、たくさん課題があります。そ 中で重ねての課題をお話いただくのも結構です。また、こんなことをす れば少しは改善するかな？など、皆様のアイデア等々がありましたら願 いします。皆様、いかがでしょうか。</p>
堀委員	<p>堀です。今年度、特別こういう状況ですので、いろんなことができなかつ たりで、現状維持以上の判定 A、B というふうにはなかなかならないなど、 仕方がなかったと思ってたのでちょっと言わなかったんですけども、こ の後ろの資料を見ましたら、欠食という、食べない人たちの理由のところ に、もっとたくさん寝ていたいとか、面倒くさいからとかいう理由ばかり で、親が食事を用意してくれなかったとか、食べるものがなかったりとか がなかったりとかという項目はなかったと思うんですね。でも実際にはあ ると思います。</p> <p>でも、それはこういう結果の中には表れてこないと思うので、また違っ た方法で、ここではないところかもしれないんだけども、やっていかな いといけないのかなというようなことも思いました。</p> <p>それから、少しでも寝ていたいから食べないということに関しては、や はりバランスの良い食事の大切さとか、時間的な栄養の摂取も重要性のあ</p>

る子はやっぱり減少していかないといけないなというふうに思いました。
以上です。

春木会長

はい、そうですね。ありがとうございます。
では、次、お願いいたします。

有川委員

よろしく申し上げます。

現状値を見させていただいて、非常にCが多いということで厳しい中間評価が出てるんですけど、その中でAですね、11番の食に関する基礎知識を有する人の増加ということで、29年度に比べて非常に向上していて、Aということで目標もクリアしているんですけども、やっぱり知識はあるんですけども実践が伴っていないのかなと。

あと食品ロスの削減のほうもAなんですけども、やっぱり分かっているんですけども、なかなか行動に、家庭の事情とか団体の事情とか、個々人の事情とかあるんですけど、その辺がちょっとギャップがあるから、今回はちょっとCが多いのかなというふうに、ちょっと私は見て感じました。

春木会長

ありがとうございます。
では富田委員は何かご意見とか提案とかございましたらお願いします。

富田委員

私は私立の幼稚園なんですけれども、先ほど先生もおっしゃってたとおり、今年は新型コロナウイルスの関係で、栽培はできたんですけど収穫はできなかったり、クッキングというものも行っているんですけども、それも例年どおり行えず、緊急事態宣言もありましたので急遽取りやめというところでは、今年と昨年の卒園までの4歳、5歳の子どもたちに食育のアプローチがあんまりできていないところで、そこがすっぽり抜けているのは園内であるかなと思います。なので、全園児で集まれないというのが、当園でもルールで決めていますので、そこで各クラスで違ったアプローチの仕方を、今後こういったこともあるかと思われまますので、例年どおりの食育のアプローチではない方法を模索しながら、認定こども園なども含めて1回話し合いたいとは思っていますので、一応意見を述べさせていただきます。ありがとうございます。

春木会長

ありがとうございます。

今の状況だと、したくてもできないということですので、何か各家庭でちょっとしたこと、例えばイージークッキング、水につけといたらわけができるなどをちょっと提供しますと、ほとんど若いママたちで、お仕事もされてということになると、なかなか頭がそっちに向かないんですね。

	<p>そこで、簡単レシピを提供していただいたりしまして、子どもが「こんな家で作って食べたよ」とか、またやり取りをしていただくと少しはカバーできるかもしれないと思いますので、よろしく願いいたします。</p> <p>ウェブで参加いただいています富永委員、ご意見等々ございませんか。</p>
富永委員	<p>すみません。アンケートの取り方なんですけど、毎年同じ小学校6年生とか中学校3年生とかにアンケートを取ってるんですか。</p>
春木会長	<p>事務局お願いいたします。</p>
事務局	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>小学生、中学生の欠食についてのアンケートということでもよろしいですか。</p>
富永委員	<p>はい、結構です。</p>
事務局	<p>そちらにつきましては、全国学力・学習状況調査ということで、毎年実施されている調査となります。児童や生徒さんについては、全生徒へのアンケートとなっております。</p>
富永委員	<p>じゃあここに書いてある平成29年度の小学校6年生と中間評価時の小学校6年生は違いますよね。</p>
事務局	<p>はい。</p>
富永委員	<p>なので、食育がちゃんと普及しているかどうかというのは、できてないところができたとなるのがやっぱり理想だと思うので、例えばアンケート結果を載せるのであれば、4年前はこうだったけど、今はこうですというのであれば、小学校6年生の子が今年、この中間評価では、例えば中学生になっているんだったら、中学校になって何%ですっていうふうにしたほうが、結果としてはちゃんと目標が達成されているというのが分かるかなと思うんですけど。</p>
春木会長	<p>事務局、今のご提案について、いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>たしかに同じ生徒に、もう一度何年か経って確認するというのは、その生徒にとってどう変化しているのか状況の把握にはなるんですけども、</p>

	<p>市としての食育がどのように進んでいるかというところは、その時点の学年での調査において状況を把握し、今後の推進について検討もさせていただいているということになります。よろしいでしょうか。</p>
富永委員	<p>はい。分かりました。</p> <p>あと、結構「食」というのは、やっぱり家庭ごとでやっぱり違うので、なかなか改善するということがすごく難しいことだと思うんですけども、私も、学校から配られる手紙だとか、そういうのでやっぱり“朝食を取りましょう”、“3食きちんと取りましょう”ということは毎回配られる手紙に書かれているので、もう見慣れた言葉になるんです。</p> <p>ただ、保護者にばかりアピールするのもすごい大事なんですけど、子ども自身が取らないといけないということを思っているかどうかというと、用意してないから食んでいいわとか思っている子どもがやっぱり多いように思うんですね。だからそこをもう少し、自分を取らなかったらこうなっているんだよというのを、もう少し理解を深めてあげて、今、タブレットを子どもは持って帰ってきて1人1台あるので、そういうところで朝食も食べましたかとか、毎日体温を計って学校に報告してると思うんですけど、そこで朝食も取りましたかっていうのを聞いてあげたりとか、取れてないところは「明日は朝ご飯を食べてきてね」って先生が一言言うだけでも、子どもはやっぱり気にするようになると思うので、そういうところも活かしていただけたらいいかなと思いました。</p>
事務局	<p>いろいろご意見ありがとうございます。</p>
春木会長	<p>校長先生、今の意見いかがでしょうか。</p>
渋谷副会長	<p>失礼します。</p> <p>確かにご指摘のとおり、本当に子どもたちには朝食の重要性というのは、授業も含めまして保健のほう、養護教諭のほうからも話はしているところはあります。</p> <p>ただ、言われたような指摘のとおりタブレットが配付されましたので、その項目に朝食に限らず、排便とか、そういうことも加えていくことは可能かと思えます。また参考にさせていただきます。</p>
富永委員	<p>お願いします。</p>
堀委員	<p>堀です。先ほど、食に関する市民の意識調査というところで、食に関する基礎知識を有する人の増加ということで、29年度は4,400人、令和2</p>

年度は12,000人となっていますが、これは令和元年度枚方市実績なので、何かイベントをされたりとか講習をされたとかの参加人数だと思うんですね。実際の市民の知識とか、それから市民だけではなく子どもたちの知識というのは習ってはいると思うんですけども、やっぱりそれよりも先に寝ることや、ほかのことをすることを優先してしまうというのは、やっぱりそこら辺の重要性というのを、もうちょっと力入れて、若い人らにもやったらいいんじゃないかなと思いました。以上です。

春木会長

ありがとうございます。保護者に向けてということですか。

堀委員

保護者というか若い世代に。多くの子どもたちに向けて。

春木会長

子どもたちにね。

では、ウェブで井上委員、お願いできますか。

井上委員

はい。お願いします。

僕はこの食育の会だけじゃなくて今年から、児童虐待問題連絡会の方も参加してまして、そちらの方では学校関係者の方の努力があり、ネグレクトだったらまだ軽いのかもっていうぐらいの問題対応をされている学校関係者の方に頭が下がるもので、食育を通してできる範囲でとにかく頑張ってください、本当の虐待とかいうほうはまた別で連携を取っていただいて、より多くの子どもを救えるようにしていただければいいかなと思います。学校関係者の方に頭が下がる思いです。以上です。

春木会長

ありがとうございます。校長先生、今のことで何かありますか。

渋谷副会長

先ほども申し上げましたようにいろいろなところで学校だけではなくて、外部機関との連携というのは取っております。地域の方も児童委員さんがおられますのでそういったところとの連携は取っています。

春木会長

はい。ほかにございませんか。

かなりたくさんのご意見と、実際にごらんになった方のサポートされている現状について、いろいろとお聞かせいただきましてありがとうございます。今までお話しいただいた以外で、こんなこともありましたよとか、こんなことについて考えてほしいとか、ありますか？特にもうございせんか。どうですか。どうぞ。

井上委員

コロナ禍においてちょっと変化を専門家のほうからなんですけど、やは

りリモートになって在宅が増えることによって、虫歯が今までなかったのに急にできてきたとかいう方も結構増えているので、皆さんお気をつけください。物が食べられないとかいう方は歯の本数が、20本以上あったらいいんですけど、ない方、足りてない方は50代、60代にメタボが多くて、70歳、75歳になるとフレイル、虚弱のほうが多いというアンケート結果が厚労省のほうから出ていますので、若いときからちゃんと食べてる量も、食べようと思ったときに食べられる口の中の環境をつくっておいていただければいいかなと思います。以上です。

春木会長

ありがとうございます。口腔維持は大事ですので、しっかりしていかなければと思います。ありがとうございます。

ほかに追加のご意見等ございませんか。

末岡委員

子ども食堂で、今年は全然防災関係のいろんなことができてないので、余ったアルファ化米を頂いて、それをおにぎりにして渡したりしています。ローリングストックと欠食をつなぐというのがいいのか。よくないのかもしれないけど、実際には食べ物がなくてというような人たちに、月1回なり何なり渡すものとして、防災食のローリングストックの解消というのも悪くないような気はするんです。ただ、例えば50食入ったアルファ化米をそのままもらっても困るので、それをいろんな形で作ったり小分けにしたりして渡すようなことをしないとイケないだろうなど。そのほかにも上手にローリングストックと欠食というものをうまくコーディネートすることができたら、どこかに解決できるものがあるんじゃないかという気が、思いつきですけどしております。また、パン屋さんで残ったパンを子ども食堂に毎回頂いています。そういうものは翌朝というわけにはいかないと思いますが、児童たち、保育園児たちに朝食べさせるものというものを用意できるような仕組みをつくることのできたらいいんじゃないかなという気持ちも持っております。以上です。

春木会長

ありがとうございます。今のご意見に関しまして、何かアイデアありましたらお知らせいただけますか。いかがですか。大変だと思いますが、食物を大切にしつつ、カバーできる食事ということで取組をしていただくということ、ありがたいなと今お聞きしながら思いました。ご苦労さまです。

ほかにご意見等々ございませんかね。では、田中委員ご意見ありますか。

田中委員

ありがとうございます。私自身、広報ひらかたの一番最後のページに、毎月枚方キッチンっていう記事を載せていただいているんですけども、それをすごく楽しみにしています。その枚方キッチンは市でユーチューブ

チャンネルをお持ちで、そこでも視聴されていると思うんですけども、視聴回数とか見ていると、あまり多くないような気がするのですが、もっと多くの人に知られたらいいなというふうに思います。若い人はユーチューブとかもよく見ておられると思うので、そういう発信の方法、周知の方法もいいんじゃないかなと思います。

その中で、やっぱり先ほども言いましたように、保育園で保護者に試食会とか今までしてたんですけども、給食参観とかやってたんですけども、ちょっと参観も思うようにできないようになっているので、離乳食の動画をあげていただくとか、そういうのをさせていただくとありがたいなというふうに思いました。以上です。

春木会長

ありがとうございます。今のご意見等にアイデア、こういうのはなどがありましたらお伝えいただけますか。いいですか。

皆様方、いろいろと目にされたりお考えになったりしていることをつぶさにお教えいただきまして、今後に向けて食育をどう進めていくかという段階になっておりますので、皆様方のご意見をできるだけ取り入れながら、案の改定をしていただくようお願いもできました。皆様のご意見もかなりありましたので、頑張っていただけるんじゃないかなと思います。ありがとうございます。

これにて、皆様方のご意見はよろしいでしょうか。

そうしましたら、次の案件、今後の予定につきまして事務局から説明をお願いいたします。

事務局

ご説明させていただきます。

資料3をごらんください。よろしいでしょうか。資料3の中間評価報告書作成に係る今後のスケジュールをごらんください。

第3次枚方市食育推進計画は、今年度が中間評価の年になります。中間評価の報告書の作成に関しまして、枚方市食育推進計画審議会は本日開催分を含めて2回の開催となる予定です。

第2回枚方市食育推進計画審議会は、3月11日を開催予定としております。次回は本日いただきましたご意見を反映させた中間評価報告書の最終案をお示しさせていただきます。その後、最終案の報告書を令和3年3月に開催予定の枚方市健康推進本部に挙げていく予定としております。以上です。

春木会長

ありがとうございました。

ただいま中間評価報告書の作成に向けて、今後のスケジュール等についてのお話をいただきました。そのことにつきまして、ご質問・ご意見等が

	<p>ありましたらお願いいたします。</p> <p>よろしいですか。既にたくさんお話を聞かせていただきましたので、できるだけ取り入れながら作成してくださるだろうと期待します。</p> <p>事務局のほうから何かありますでしょうか。</p> <p>本日の案件に対するご意見についてですけれども、会議終了後もさらにご意見、ご質問、疑問等が生じる場合もあるかと存じます。お忙しい中申し訳ございませんが、ファクスやメールなど形式は問いませんので、1月27日水曜日までに、こちら事務局までご提出いただきますようによろしくお願いいたします。締切りまでの時間が短く、大変恐縮ですが、第2回目の審議会に向けまして最終案を作成しまして、事前に委員の皆様を確認をしていただけるよう準備を進めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>最後になりますけれども、本日の審議会についての議事録を急いで事務局で作成させていただきます。皆様にご確認いただいた後、ホームページにて公表させていただきますので、そちらのほうもどうぞよろしくお願いいたします。以上です。</p>
<p>事務局</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>ただいま中間評価報告書作成に関わるスケジュール等について、説明をいただきました。</p> <p>では、本日予定の論議いただきました審議は全て終了いたしました。</p> <p>本日の審議会と、それから後に頂いたご意見等を合わせまして、副会長及び事務局とともに調整、整理させていただき、次回資料を作成いたしますのでよろしくお願いいたします。また、次回の第2回食育推進計画審議会の日程は、3月11日木曜日、15時、本日と同じ会場にて開催いたしますので、よろしくお願いいたします。案内文につきましては後日送付させていただきます。</p> <p>以上をもちまして、本日の審議会は終了とさせていただきます。長時間、たくさんのご意見等々をいただきましてありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたしますと思います。ありがとうございました。</p>
<p>春木会長</p>	